

# 景況レポ

6月分

情報連絡員 80名

## 製造業・非製造業とも DI値が上昇

～非製造業は1年2カ月ぶりに-50台に回復～

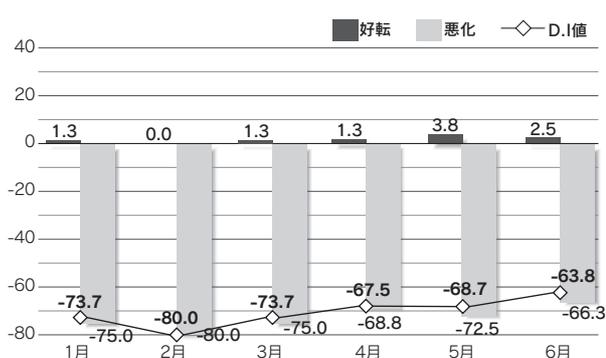
### 景気概況

6月分の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが2.5%（前月調査3.8%）、「悪化」が66.3%（同72.5%）で、業界全体のDI値は-63.8となり、前月調査と比較し4.9ポイント上回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-75.0で前月調査（-81.3）に比べ6.3ポイント上回った。また、非製造業全体としてのDI値は-56.2で前月調査（-60.4）に比べ4.2ポイント上回った。

（回答数：80名 回答率：100%）

業界全体好転悪化割合 [前年比/同月比]



※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員	[天気図の見方] 前年同月比のDI値をもとに作成しています。
製造業							<b>[凡例]</b> 快晴 30以上 晴れ 10以上 30未満 くもり △10以上 10未満 雨 △30超 △10未満 雷雨 △30以下
非製造業							

### 業界の声

味噌醤油製造	5月分の出荷量は、前年同月比で味噌が104.2%、醤油は88.8%で推移した。味噌は前月比でもプラスに転じた。
清酒製造	5月分の清酒出荷量は1,497klで、前年同月比87.0%で推移した。タイプ別では、吟醸酒が前年同月比で91.8%、純米酒が85.8%、本醸造酒が79.9%、レギュラー酒が87.7%という状況になっている。
繊維・同製品	アパレル各社ともセールの前倒しなどで在庫の調整を図っているが、逆に正価品の売れ行きに悪影響もあり、思惑通りの結果が出ていない。
木材・木製品	不況のおおりに受け、木造住宅の着工数が前年比80%を割り込んだ。更に荷動きの停滞感から一部製品の価格が下がり始め、景況は一段と悪化している。
窯業・土石	4月～6月の出荷数量は前年比70%と厳しい状況が続いている。ただ、6月は4月・5月に比べ若干ながら改善に向かいつつある。政府の緊急支援策による7月以降の需要増に期待したい。
自動車販売	6月の新車販売台数は、登録自動車が2,081台（前年同月比99.3%）、軽自動車が1,810台（同87.0%）で、合計3,891台（同93.2%）で推移した。
石油製品	ガソリン1ℓ当たり118円で前月比2円の引き上げ、軽油は1ℓ当たり98円で前月と変わらず、灯油（配達込み）は18ℓ宅配で1,146円で前月比18円の引き上げとなった。ガソリンの仕切価格は上昇しているが小売価格への転嫁が進まず、平均小売価格は全国最安値となった。
電機販売業	エコポイント制度がある程度消費者に浸透した感があり、夏物商戦としても冷蔵庫、エアコンの売上が消費水準を押し上げていると思われる。テレビもデジタル化に向けて消費が動いているが、全国レベルからは低調で推移していることが気にかかる。
商店街	集客力不足と一般消費の買い控えにより厳しい状況にある。期待した定額給付金の影響も未だに感じられないが、全般的には前年比はほぼ横ばいで推移した。[秋田市] 好転の材料が全く見当たらない。4月に市が発行した地域振興券については高額商品の売上増を期待したが、相当の額が食費・光熱費等に消えた節もある。[鹿角市]
一般建築	受注は地域により偏りがあるが、一般建築の着工が少ない状態である。収益は減少傾向にあり資金繰りも厳しい。
運輸	貨物量は依然として低迷している。運賃のダンピングも激しく、関東・関西からの帰り便では10tの運賃が、今や4t分の運賃しか出ない状況である。県南地区では車両及び人員を削減し、徹底した支出管理を行い収益確保に努めている企業もある。